きるよう取り組みたい。

問 新キャンパス建設と新駅構想を一体で進めるには八木西口駅の存続、廃止のあり方など早期解決が必要とのことだが、八木西口駅は、どこが主体となって進めていくのか。

答 まちづくりを進める主体は本市である。平成27年3月に県とのまちづくりに関する包括協定を締結していることから、県も参画いただけるものと期待をしている。

問 八木西口駅の利用実態調査の内容、時期は。

答 八木西口駅利用者が、どこへ向かい、どんな施設を利用するのか把握する実態調査を平成28年度中に実施する。

問 八木西口駅の早期解決に向け、住民説明等も含めた本市のスケジュールは。

答 八木西口駅は、歴史があり将来的にも本庁舎の最寄り駅になる。さまざまなプランを検討する必要があり、現時点では、地元の方々への説明ができる状況ではない。地元や地域へは、県、市、近鉄が共有できるプランを策定した後の適切な時期に説明することが望ましいと考えており、今後のスケジュールを言うことは難しい。

一般質問 細川 佳秀（自由民主党）

平成26年度3月議会での附帯決議と関連する施設

問 127億の債務負担行為の予算案に附帯決議をつけ可決しているが、これまでどのような対策が講じられたのか。

答 国道24号柳町交差点の東行き、市役所西交差点の南行きの渋滞調査を実施している。担当課である建設管理課と、橿原警察署、県警察本部、奈良国道事務所など各方面の関係機関と協議している。警察とは法務局前の新たな交差点の設置や、国道24号の信号現示の調整をしている。奈良国道事務所とは、国道24号の近鉄百貨店前の交差点の改良や京奈和自動車道の早期実現に向け協議、要望をしている。

問 30年に分庁舎及び宿泊機能を含む観光施設が完成し、八木駅前は人が集まりにぎやかになる。車の渋滞、人の流れも増えるが、南側ロータリー周辺の今後の対策は。

答 ロータリーは、路線バス、一般車両などが数多く利用されているが、現状、大きな混乱は発生していない。複合施設がオープンすることで、ロータリー周辺の交通に大きな影響を及ぼす可能性がある。地元と協議した結果、オープン後1年間の交通状況を見て、駅前商店街通りの一方通行の見直しやロータリーの改良も含め検討する予定である。

問 オープンに向けて改良できる範囲で改良するべきでは。

答 八木駅の南側から国道に出にくい状態で、直接国道に出る方法を検討しているが、歩道を横断して新たに車道を設けることは、交差点が1つ増え、歩行者の安全面から難しい。30年のオープンまでに改良することは困難である。

問 車道は難しいとのことだが、歩道はどうなるのか。この施設は八木駅から傘を持たずに行けるといったフレーズも聞いたことがある。その為の予算が計上されていないが、オープンに間に合うのか。同時に、分庁舎と本庁舎間のアクセスはどう考えているのか。

答 駅からの歩行者動線は、南側の広場内に設置している雨よけシェルターを延長し、安全かつ快適に導くことができる。予算計上していないが補正予算で対応して、間に合うように整備したい。本庁舎へのアクセスは、周辺の国道24号の歩道整備、拡幅計画が進むと、市役所前の横断歩道が廃止され、西側の交差点に新たに横断歩道を設置する計画である。歩行者のアクセスは、駅前商店街の通りの東側の歩道がメインルートになってくる。

問 現状のシェルターは少し強い雨の日は傘が必要で、不満も多い。市民に優しい動線にするにはシェルターの改良が必要では。

答 歩道に設置しているため、建築基準法上で歩道面から2m50の高さ、車道は、車道面から4m50の距離が必要。シェルターの幅は3m50で、不便をかけていることは十分認識している。どうするかは検討に加えたいが、設置後数年で、全て取り壊し、新しくすることは困難と考えている。これらも踏まえ、なるべく不便がないようなシェルターの設置を心がけたい。

八木駅南ロータリー

問 法務局の西側の通路を改良するつもりはあるのか。

答 現状の建物を生かし、南側の自衛隊官舎を含め整備予定で、東側の国家公務員宿舎は現在使われておらず、検討中である。市としても有効な土地で取得もあわせ、通路部分の改良ができればと検討している。

問 本庁舎南側の土地建物取得の進捗状況は。

答 25年11月から交渉しており、土地の筆界、面積を確定し鑑定も行っている。また、建物の補償調査も完了し、現在、土地所有者と建物所有者に対し金額提示を行なっており前向きに検討してもらっている。今後も交渉を重ね、29年度末までには当該用地を取